

巻頭言

「ポスト新型コロナウイルス」

理事長 新谷友良

緊急事態宣言継続の傍ら、政府・企業からは「出口戦略」とか「BCP」（Business continuity planning、事業継続計画）といった言葉が聞かれるようになりました。BCPとは、「企業が自然災害、大火災、テロ攻撃などの緊急事態に遭遇した場合において、平常時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための方法、手段などを取り決めておく計画」と説明され、3.11 東日本大震災のあと頻繁に聞かれた言葉です。

東日本大震災と新型コロナウイルスをつい比べてしまいます。東日本は阪神・淡路と同じ地震災害でありながら、大きな相違点がありました。福島原発の事故です。阪神・淡路をモデルとしたBCPは、東日本でも機能して、課題は持ちながら日本は一定の復興を見ましたが、福島原発の問題は解決しないまま、社会全体が目をつぶって先送りしています。

そしていま、阪神・淡路にも東日本にもなかった、新型コロナウイルスという災害に私たちは直面しています。阪神・淡路から東日本にかけて大きく広がった「ボランティア」という言葉は消えて、「外出自粛」・「休業要請」という言葉に代わりました。そこでは、従来のBCPの根幹をなしていた「人の移動・交流」という事業継続・復興の手段が、とりもなおさず災害拡大の最大の原因とされています。

失われた「移動の自由」を取り戻す試みが、インターネットの中で進んでいます。私たちが堅固と考えていたリアルなものがバーチャルなものに次々と置き換えられています。テレワーク、オンライン授業、オンライン診療、ウェブ会議等々。バーチャルなものを感じる違和感は、ここ何か月、何年かで失せて、そのような在り方が「新しい生活様式」とされ、自然なものと感じる社会が生まれつつあるのかもしれませんが。

「動的平衡」を書いた福岡伸一は、朝日新聞で「ウイルスは私たち生命の不可避的な一部であるがゆえに、それを根絶したり撲滅したりすることはできない。私たちはこれまでも、これからもウイルスを受け入れ、共に動的平衡を生きていくしかない」と書いています。私は旧弊な人間なので、人が人と会わなければ社会は成り立たないと考えますが、新型コロナウイルスは、「新しい生活様式」といった言葉では処理できない深い社会の変化（動的平衡）をもたらす予感がしています。